椰子の樹
長野県ニューギニア会 会報
第33号
令和5年7月1日発行
長野県諏訪郡富士見町落合
発行人　小池博之
印　刷　杏花印刷

ニューギニア進攻から80年
南海支隊のMO攻略戦
死の進軍・ココダトレイル

東部ニューギニア作戦は、南海支隊のポートモレスビー陸路攻略作戦に始まり、アイタペで終戦を迎えるまで、3年半に渡る過酷な戦闘であった。80年前の昭和17年8月、南海支隊の主力がブナ、パサブアに上陸し、ニューギニアにおける戦闘の第一歩を進めた。16日分の糧食を背負い道もない未開のジャングルと、3千メートルを超える山稜を越えてポートモレスビーを目指し進撃したが補給が絶え、飢えと病に苦しみながら作戦を中断して退却、攻略は失敗に終わる。

開戦初期、南海支隊は南太平洋の島々を攻略する陸軍の高知歩兵144連隊が主力となり編成された精鋭部隊であった。緒戦ではラバウル占領、ラエ、サラモア攻略に大きな戦果をあげた。しかし連合軍の反撃が始まると、米・豪軍の拠点基地・ポートモレスビーに対し、陸路からの攻略が命じられる。

昭和17年8月険しいスタンレイ山脈を越え、待ち受ける豪軍を撃破しつつ、山麓のココダを経てポートモレスビーを望見する、イオリバイワまで到達したが、ガダルカナル島方面の戦況重大化に伴い退却の命が下る。

南海支隊の進軍経路は、現在「ココダ・街道」として戦跡巡拝やトレッキングコースとして整備され、この国の文化の源流を訪ね歩くルートとして、人気を集めている。コースはモレスビー～ポポンデッタ間約100キロテントでの宿泊を含め、10日間日程で極楽鳥やトリバネアゲハはもとより、珍しい野生蘭なども楽しめる。

ココダの丘・日本軍慰霊碑での慰霊祭（写真提供：日本遺族会）

ココダトレイルの記念碑
モレスビー市郊外

▽第55回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭並びに臨時総会開催のお知らせ

長野県ニューギニア会は会則により、ニューギニア方面戦没者慰霊大祭と、臨時総会を左記の通り開催いたします。

記

●慰霊大祭　日時　令和5年7月30日（日）
　午後1時から　本殿
●臨時総会　同日　午後2時から　美須々会館

会員の皆様のご参加をお待ちしております。

会の存続と社団としての対応へ
長野県ニューギニア会　会長　小池博之

竹笹の色とりどりの七夕飾りに、夏の訪れを感じる季節となりましたが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、新年度の事業計画につきましては、コロナ禍が収束に向かう中で、夏の慰霊大祭と、現地慰霊巡拝団派遣に向けて取り組んでおります。

今年2月の定期総会において、監査委員会から「会の存続と、残された課題への取り組み」が提言されました。

本会は発足以来55年を迎え「英霊を顕彰・慰霊し恒久平和を目指す」という所期の目的を達しつつ今日を迎えました。しかしながら、今後の会の存続を思考すると、避けて通れない多くの懸案があります。

①ウエワクに設置した「コイキン観音像」と、護國神社境内「嗚呼戦友の碑」の今後の維持管理問題②会員の減少に伴う財源確保③権利なき社団としての清算手続きの検討などにも対応していかなければなりません。

戦後78年が経過し、戦後生まれが9割となり、戦争の記憶は風化し、遺族会に対する認知度も低下する中、日本遺族会は本年度から戦後80年に向けた「組織継承三カ年計画」を策定、諸施策の対応が示されました。

本会も、会の存続と社団としての在り方等に真摯に向き合うことが、私どもに課せられた責務であります。

どうか皆様のお力添えを賜りますようお願い致します。

長野県護國神社

春季例大祭厳粛に斎行

コロナ禍収束・遺族ら二百五十名参集

長野県護國神社の令和5年度例大祭は4月29日・30日の両日、新緑が映える神苑で諸祭儀が厳粛に斎行された。

晴天に恵まれた30日の当日祭には、新型コロナ禍が収束状況となったことから県内各市町村の遺族会代表者を始め、関係者二百五十名が参集した。

午前11時、本殿の御扉が開かれ、海川山野の神饌が献ぜられ、奥谷一文宮司が祝詞を奏上。巫女による「御霊慰めの舞」が奉納された。続いて務台俊介県護國神社総代会会長、後藤茂之経済再生大臣、阿部守一県知事らが玉串拝礼を行った。

また、大祭期間中、神域内では弓道大会、文芸展、諸流いけばな展など奉納催事も開かれ、例大祭に彩りが添えられた。本会からは神社からの招請により、小池会長が参列し玉串拝礼した。

本殿へ参進する宮司以下神職

84年ぶりに米国から遺影が遺族の元に

佐久市出身の故・臼田秀雄さん　本会が返還事業協力

日中戦争末期の昭和14年末、満州で戦死した佐久市出身の旧日本兵の写真が、84年の時を経て、米国から同市に住む遺族のもとに返還された。

米国のNPO法人が、イリノイ州で入手し、本会がこの返還活動に協力して実現した。

写真の持ち主は、同市協和出身の臼田秀雄さん（大正7年3月15日生まれ）。松本50連隊に入隊、昭和14年12月中国・江西省で亡くなった。

米国から本会に届いた写真は5月10日小池会長、安川副会長が佐久市の臼田家を訪問、遺族関係者に手渡された。写真を拝受した甥の光男さん（63）と、姪の中塚由枝さんは「これまで伯父の遺影はスケッチ画しかなかった、上等兵の襟章を付けた凛々しい写真に、親族一同驚き、感無量です」と感謝した。

米国から帰郷した遺影を受け取る甥の臼田光男さんと姪の中塚由枝さん

半世紀に渡る米国慈善団体の遺留品の無償返還プロジェクト活動が、時空を超えて写真返還に繋がった。代表のジャガード・千津子さんは「写真がご遺族に帰り、皆様が喜んで受け取って下さったと聞き、嬉しく思います。本当にこの活動をしていて良かった」と、メールを寄せた。

昨年夏、長野県出身者とみられる、日本兵の遺留写真6枚が米国のオークションで見つかり、ジャガードさんから本会に情報の提供を求めてきた。

この6枚の内、昨年8月には、上田市上室賀出身で、テニアン島で戦死した宮入徳重さんと判明、写真は本会を通じて遺族に引き渡された。

米国からジャガード代表来日

県内の戦争遺構・象山地下壕視察

キセキ遺留品プロジェクトのジャガード代表は4月中旬来日、厚労省、日本遺族会事務局などを表敬するとともに、国内の協力団体を訪問した。県内では長野市を訪れ、本会や全国ソロモン会関係者の案内で、松代象山地下壕と戦没慰霊美術館（無言館）を訪問した。

TOPICS 時の話題

― 戦没者遺骨収集推進協会 ―

現地調査 相次いで実施へ

本年度は12の地域で計画

西ニューブリテン州博物館に仮安置されているご遺骨を確認する大使館員（提供　ソロモン会）

コロナ禍で見送られてきた戦没者遺骨収集事業は、昨年12月から本年3月にかけ相次いで現地調査団が派遣され、事業が再開された。

遺骨収集推進協の説明によると、東部ニューギニア、マリアナ諸島、ビスマーク・ソロモン諸島、トラック諸島など7地域。

パプアニューギニア関係では東部ニューギニアの東セピック州ウエワク周辺。また、西ブリテン州、ブーゲンビル州、ビスマーク諸島などの状況については、全国ソロモン会から本会に現地調査に関し次の報告が寄せられた。

○第1次派遣事業、期間は令和4年12月18日から8日間

活動地域は首都ポートモレスビー、西ブリテン州ホスキンス、ブーゲンビル州ブカ島、ソファナ島。コロナ禍で現地に保管されているご遺骨の状況確認と情報収集活動を行った。

西ブリテン州博物館では、3年間仮安置されていたご遺骨の保管状況を確認したが、一柱ごとに丁寧に納骨袋に収められ保管されていることを確認した。ソファナ島では現地人も参加して慰霊追悼式を行った。

○第2次派遣事業、期間は令和5年1月15日から10日間、活動地域はポートモレスビーからホスキンスに移動、主要任務であるご遺骨の洗骨鑑定と慰霊祭や報告会を行った。

○東部ニューギニア地域は1月20日からから2月1日の13日間実施した。これまで現地に保管している東セピック州、サンダウン州、モロベ州地域の遺骨を鑑定し23柱をDNA鑑定のため、検体は日本に送還し、ご遺骨は現地の日本大使館に安置した。

遺児による現地慰霊の旅再開

付添い者へも国の補助金

日本遺族会が厚生労働省の補助を受け実施している「戦没者遺児による慰霊友好事業」はコロナ禍により見送られていたが、令和5年度から全面的に再開され、19地域に対し参加者を募集している。

本年度より戦争の悲惨さ、平和の尊さを引き継ぐことを目的に、青年部育成の一環で、付き添い者として孫、ひ孫甥、姪の旅費に対し国の補助金が受けられることとなった。

募集要項は次の通り

▼地域及び時期

（関係する地域のみ掲載）

○**東部ニューギニア**

（マダン、ウエワク、ボエキン、ブーツ、ラエ）

10月25日～11月1日

○**東部ニューギニア・特定地区**

（マダン、ウエワク、ハンサ、ポポンデッタ、ギルワ）

令和6年2月1日～8日

○**西部ニューギニア・特定地区**

（ジャヤプラ、ゲニム、ビアク島、マノワクリ、ソロン）

令和6年2月13日～22日

○**ビスマーク諸島**

（カビエン、ラバウル、ブカ島、ブーゲンビル島）

10月25日～11月1日

▼参加費・申し込み先

10万円、長野県遺族会事務局又は市町村の遺族会、申し込は実施日の二ヵ月前まで。

本会はこの事業に参画して、2名の会員を派遣する。希望者は7月15日までに当会の事務局までご連絡ください。

申し込み多数の場合は選考となる。

なお、集合場所までの交通費帰国時の宿泊代、渡航手続き料等の費用は個人負担となる。

横田　久さん 旭日双光章

叙勲受章祝賀会を開催

本会からの記念品を受ける横田夫妻

令和4年秋の叙勲において、旭日双光章を受章した横田久本会顧問の叙勲祝賀会が3月4日長野ホテル犀北館で開催された。

会場には発起人の荻原健司長野市長をはじめ、若林健太、宮下一郎、務台俊介国会議員、加藤久雄前長野市長、遺族会役員、友人など百人余が参集し盛大な祝宴となった。

挨拶に立った荻原市長は「長野市遺族会長初め、県遺族会長、日本遺族会理事など長年に渡り戦没者遺族の福祉向上に尽くした功績は大きい、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐ更なる活動を祈念する」と述べた。

来賓の祝辞に続き記念品の贈呈で、本会からは「九谷焼の花瓶」を小池会長が進呈した。

お礼に立った横田さんは「この度の栄誉は、ご遺族を代表して受けたもの、活動を支援して頂いた皆様に心から感謝したい」と述べた。

第55回通常総会の報告

第55回長野県ニューギニア会通常総会は、天候不良のため開催日を一日遅らせて、2月12日松本市浅間温泉・みやま荘で開催された。総会は、午後2時に開会、初めに南十字星の下に眠るご英霊と昨年度に亡くなられた会員物故者に対し黙祷を捧げた。

冒頭、小池博之会長があいさつに立ち「昨年度は2月の定期総会の後、7月のニューギニア方面戦没者慰霊大祭は3年ぶりに参加制限を解除して厳粛に斎行。また、現地慰霊巡拝団の派遣事業は、一昨年に続き中止となった」と、説明した。

その他の事業については、会報「椰子の樹」の年2回発行、インターネットHPの維持管理、新年の「靖国カレンダー」発行・制作にあたり、本会広報部の参画、米国の慈善団体・イセキプロジェクトからの依頼で「旧日本兵の遺品返還活動」に協力し、上田市のご遺族に引き渡されたことなどが報告された。

議事は、安川副会長が議長に選任され進められた。第1・2号議案「令和4年度事業・決算報告」。第6・7号議案「令和5年度事業計画・予算案」は、いずれも原案どおり可決承認された。

また、第4号議案の新役員の選任は、小池会長以下幹事まで20名の役員を選任。中信地区代表幹事に川上白雪さん（松本市）が新任された。

再選された小池会長は、役員紹介あいさつで「役員の皆さんの年齢は80歳を超えて気力、体力とも大変厳しい状況にあります。しかし半世紀を越え伝統ある本会をさらに存続するため、役員の皆さまとともに微力ながら奮励努力いたしますが、これまで以上にお力添えをお願いしたい」と述べた。

みやま荘で開催した第55回通常総会

可決された主な議案内容は次のとおり

1．令和4年度収支決算報告

収入総額　2，082，116円
支出総額　840，713円
（差額）1，241，403円
（翌年度繰越金）

2．令和5年度事業計画

・第55回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭
（7月30日(日)午後1時～
松本市・県護國神社）
・ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
・会報「椰子の樹」2回発行
・ホームページ維持管理
・東部ニューギニア戦友遺族会や栃木県護國神社など、県外友好関連団体との交流

3．令和5年度予算

収入総額　1，969，413円
支出総額　1，488，000円
次年度繰越　481，413円

4．新役員は次の皆さん

（敬称略）

顧問　横田　久（長野市）
同　本田　昌彦（青木村）
同　大久保典昭（松本市）
同　原　雅彦（長野市）
会長　小池　博之（富士見町）
副会長　長田　健治（長野市）
広報委員長兼務
同　成沢　勝人（大町市）
同　安川　叡春（佐久市）
会計兼務
同　宮島いく子（長野市）
幹事長兼務
女性部長兼務
同　大久保寛憲（長野市）
事務局兼務
監事　米澤　生久（千曲市）
同　水澤　博人（信濃町）
副幹事長
荒井　綏（長野市）
同　宮嶋　叙子（中野市）
北信代表幹事
竹村　淳（長野市）
東信代表幹事
大角　貞夫（立科町）
中信代表幹事
川上白雪（松本市）【新任】
南信代表幹事
山崎富士男（伊那市）
同　三沢　卓夫（岡谷市）
幹事　小林　武夫（上田市）
同　西村千代子（安曇野市）
同　松田　克江（宝塚市）
同　高林　利光（岡谷市）
同　山田　和子（松本市）
同　宮本　佳雄（千曲市）

訃報

東信代表幹事
大角 貞夫さん　逝去

謹んでお悔やみ申し上げます

令和5年3月20日没・享年86歳

大角さんは、平成19年8月入会　令和2年以降東信地区代表幹事として当会の運営に指導的な立場で率先して関与し、通常総会などにおける的確な意見の具申により、会の円滑な活動に寄付されました。

事務局から

当ニューギニア会に次の会員からご寄付をいただきました

長野市　丸山芳邦　様

有難うございました。

椰子の実

★84年の時空を越えて、米国の慈善団体から兵隊さんの写真が佐久市の遺族の元に帰った。本会が橋渡しのお手伝いをして実現したが、初めて遺影を見た遺族は驚愕し、感謝した。★コロナが感染症法上の位置付けが変わって、海外遺骨収集事業も復活。現地への慰霊の旅も再開されるが、戦争を知らない若い世代の方々にもご協力を頂きたい。★元会長の横田久さん、叙勲受章祝賀会盛大に開催。戦没者遺族の福祉向上に尽くした功績が顕彰された、更なる遺族会存続のためお力を頂きたい。★この程、TV番組「世界不思議発見」で、ニューギニアのセピック川流域集落が紹介された。内容は期待に反し踊りや食べ物ばっかりで、この地で80年前、日・米・豪軍が三年半に渡り戦闘を繰り広げたことは一切触れず残念至極★人類はこれまで何回もウイルスによる感染症と戦ってきた、コロナもようやく収束に向かっているとされるが、再び感染拡大も心配される。ワクチンの接種も引き続き重要とされる。新たな感染者も増えているとか、皆様も御身ご大切にお過ごしください。（T）